

学校生活についてのアンケート調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査目的

学校生活についてのアンケート調査は、各学校においては、児童生徒の実態を把握し、いじめの未然防止や早期発見・早期解決につなげることを、教育委員会においては、藤沢市全体の傾向を把握して今後の施策に反映することを目的として、全市立小中学校の児童生徒を対象に実施しています。

昨年度は、質問形式を「はい」「いいえ」の2択の選択肢から回答するものでありましたが、本年度は設問数を減らし、複数回答するものに変更しています。そのため、本年度は経年による比較はしていません。

また、今回は、コロナ禍におけるいじめ問題や児童生徒の不安な気持ち(設問8)と、地域や家庭等での学校外での状況(設問9)について、それぞれ把握できるように自由記述での項目を新たに設けています。

なお、本年度は新型コロナウイルス感染症による臨時休校後、子どもの心の状況を早く把握する必要があると考え、学校に7月中のアンケート実施を依頼したため、例年より学校で生活した期間が短い中で行った調査となっております。

(2) 実施時期 2020年7月(一部9月に実施)

※学校独自のアンケートを7月に実施したため、本アンケートについては9月に実施した学校が一部あります。

(3) 調査対象 全市立小・中学校児童生徒

小学生(単位:人)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	回答率
3,721	3,742	3,747	3,801	3,859	3,903	22,773	99.1%

中学生(単位:人)

1年	2年	3年	計	回答率
3,497	3,285	2,979	9,761	93.7%

※回答率は令和2年9月1日現在の児童生徒在籍数に対する回答数の割合です。

※欠席者等がいるため、回答率は100%になっていません。

(4) 調査・回収方法 無記名または記名で回答し、記入後その場で回収

(5) 調査内容 「学校生活についてのアンケート」

設問1～設問4 「学校生活の中で嫌な思いをしている児童生徒の把握」

設問5 「相談状況の把握」

設問6 「自己の行動の見直し」

設問7 「周囲の児童生徒の意識」

設問8 「コロナ禍での不安や心配、困っていること」(自由記述)

設問9 「学校外での不安や心配、困っていること」(自由記述)

2 調査結果の分析の観点

(1) 児童生徒の学年別での実態把握

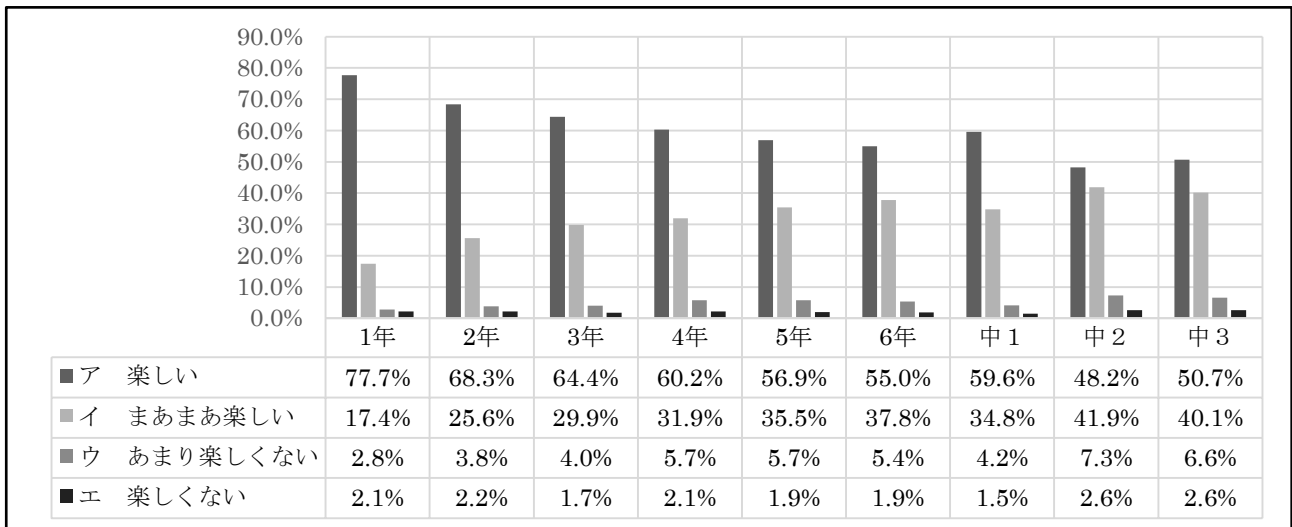
(2) 嫌な思いをしている児童生徒と嫌な思いをさせた児童生徒、嫌な思いをしている児童生徒を見たり聞いたりした児童生徒の割合

(3) 近年問題視される、パソコン、携帯電話・スマートフォン等に関わる割合

(4) 新型コロナウイルス感染症に関連した冷やかし等に関わる割合

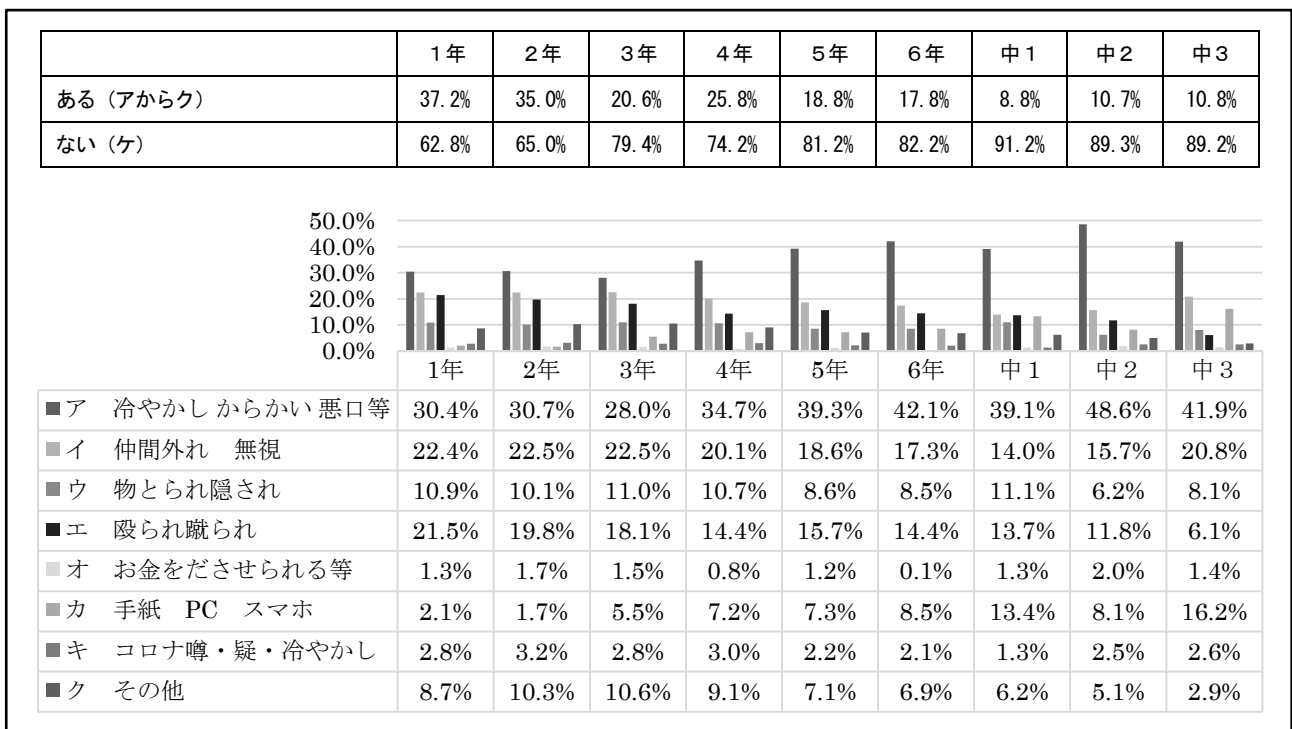
3 調査結果の分析

(1) 学校は楽しいですか。



学校が「楽しい」「まあまあ楽しい」と回答した児童生徒は、どの学年も90%以上となっている。「楽しくない」の数値が最も高いのは中2、中3となっている。

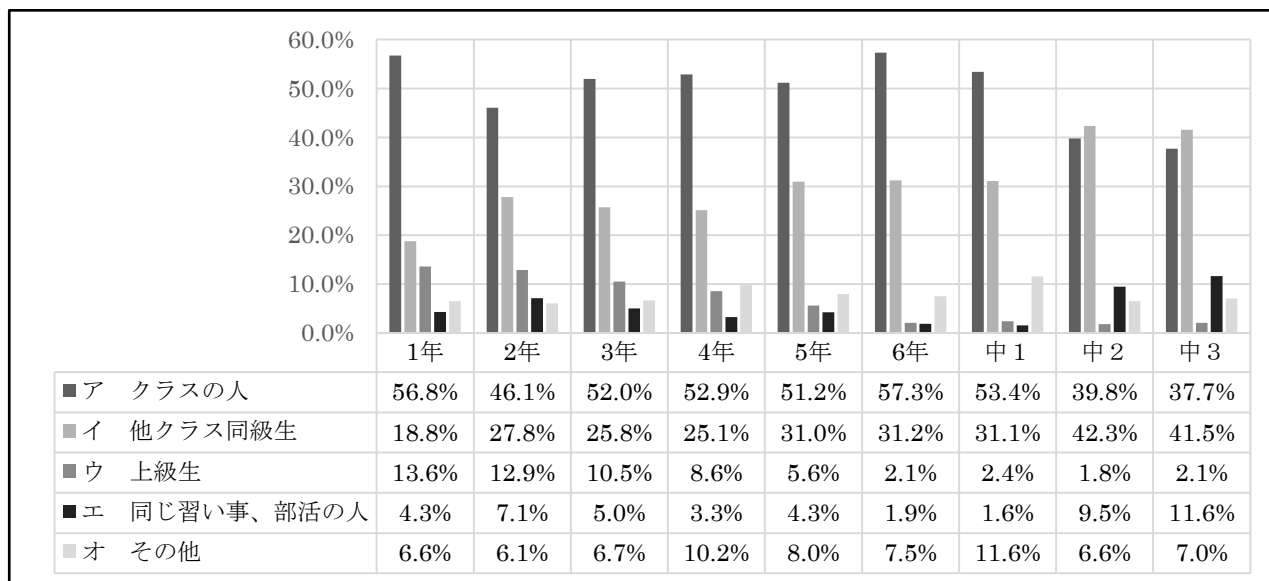
(2) 次のようなことをされて嫌な気持ちになったことがありますか。（複数回答可）



「嫌な気持ちになったことがありますか」という設問において「ある」と回答した児童生徒の割合は、小学校では概ね学年が上がるにつれて減る傾向にある。一方中学校では、学年が上がるにつれて、わずかに増加傾向であるが、小学校と比較すると「ある」と答えた割合が低い。

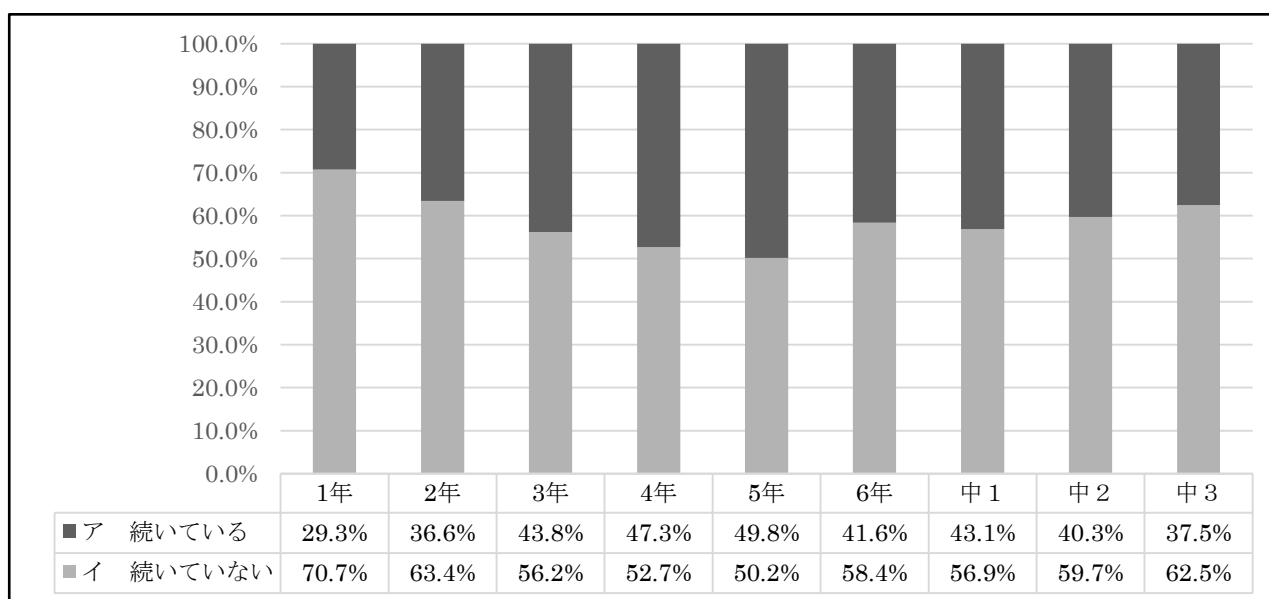
行為の内容は、どの学年も「冷やかしからかい悪口等」が最も多く、次に「仲間外れ無視」となっている。「手紙 PC スマホ」とするものは、全体的にみると、少数ではあるが、中1と中3に高い割合がみられる。「新型コロナウイルス感染症のことで嫌なことを言われた」については、全体的にみると少数ではあるが、小2、小4に高い割合となっている。

(3) 2のことを誰からされましたか。



小学校では、「クラスの人」がおおよそ半数を占める一方で、中学校では、「他クラスの同級生」が高い割合となっている。中2、中3では「同じ部活の人」の割合が約10%となっている。

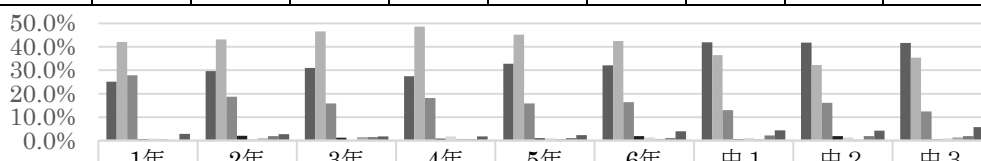
(4) 2のことは今も続いていますか。



「続いている」と回答した割合が最も高かったのは小5で、「続いていない」と回答した割合が最も高かったのは小1となっている。

(5) 2のことを、誰かに話したり相談したりしましたか。(複数回答可)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中1	中2	中3
ある(アからク)	76.0%	65.5%	62.8%	63.6%	66.2%	67.9%	65.9%	66.8%	65.1%
ない(ケ)	24.0%	34.5%	37.2%	36.4%	33.8%	32.1%	34.1%	33.2%	34.9%



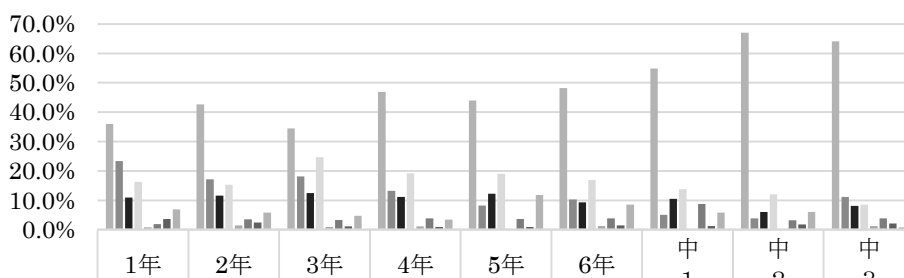
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中1	中2	中3
■ア 友達	25.1%	29.6%	31.1%	27.4%	32.8%	32.1%	41.8%	41.7%	41.6%
■イ 家の人	42.1%	43.2%	46.6%	48.6%	45.1%	42.4%	36.4%	32.2%	35.4%
■ウ 担任	27.9%	18.8%	15.8%	18.2%	15.9%	16.3%	13.0%	16.1%	12.4%
■エ 養護教諭	0.6%	2.0%	1.3%	0.9%	1.0%	1.9%	0.5%	1.9%	0.5%
■オ スクールカウンセラー	0.8%	0.8%	0.3%	1.8%	1.0%	1.3%	1.1%	1.4%	1.0%
■カ 電話相談	0.6%	1.0%	1.6%	0.7%	0.7%	0.8%	0.5%	0.5%	1.4%
■キ メールLINE相談	0.1%	1.9%	1.6%	0.5%	1.2%	1.1%	2.2%	1.9%	1.9%
■ク その他	2.9%	2.8%	1.8%	1.8%	2.4%	4.0%	4.3%	4.3%	5.7%

小学生は「家の人」に話したり、相談したりする割合が高く、中学生は、「友達」が高くなっている。小1以外は、約32～37%が「話をしていない」と回答している。

(6) 周りの人が嫌な気持ちになるようなことを言ったりしたりしたことがありますか。(複数回答可)

(複数回答可)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中1	中2	中3
ある(アからク)	13.7%	13.9%	9.1%	12.3%	10.8%	11.9%	7.1%	8.7%	7.4%
ない(ケ)	86.3%	86.1%	90.9%	87.7%	89.2%	88.1%	92.9%	91.3%	92.6%

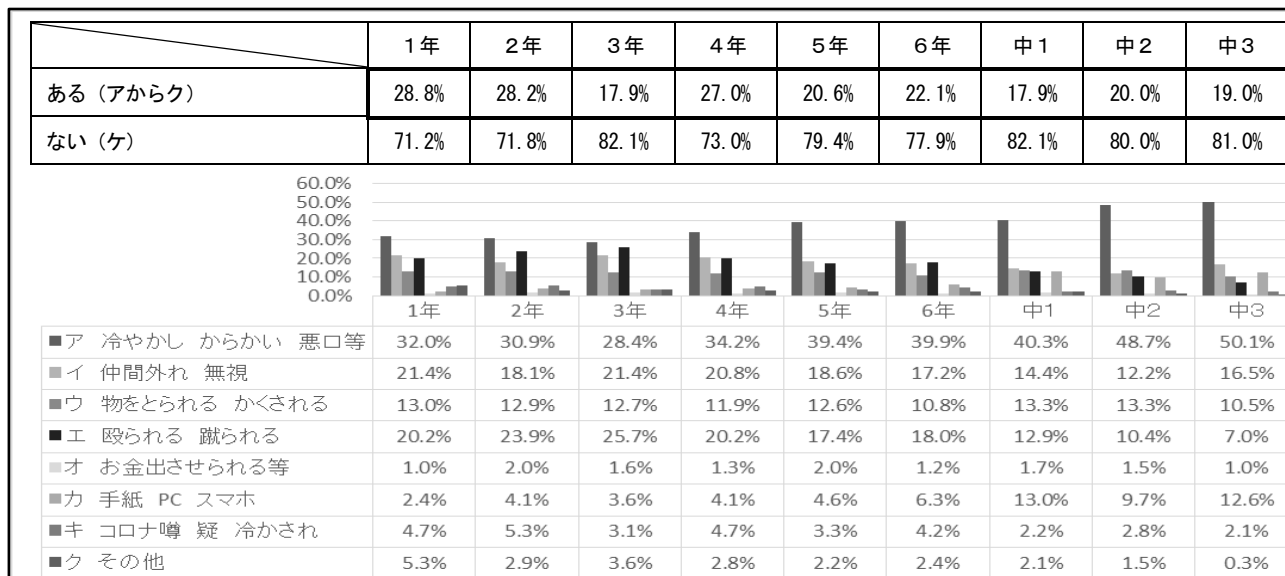


	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中1	中2	中3
■ア 冷やかす からかい 悪口等	36.1%	42.7%	34.5%	46.9%	44.0%	48.2%	54.8%	67.0%	64.1%
■イ 仲間外れ 無視	23.4%	17.2%	18.2%	13.3%	8.2%	10.3%	5.0%	3.9%	11.1%
■ウ 物をとる かくす	10.9%	11.6%	12.5%	11.2%	12.3%	9.4%	10.5%	6.0%	8.1%
■エ 殴る 蹴る	16.3%	15.3%	24.7%	19.2%	19.0%	16.9%	13.8%	12.1%	8.5%
■オ お金出させる等	0.9%	1.4%	0.9%	1.1%	0.2%	1.3%	0.0%	0.0%	1.3%
■カ 手紙 PC スマホ	1.9%	3.5%	3.3%	3.9%	3.6%	3.9%	8.8%	3.2%	3.8%
■キ コロナ噂 疑 冷かす	3.6%	2.5%	1.2%	0.9%	1.0%	1.5%	1.3%	1.8%	2.1%
■ク その他	6.9%	5.8%	4.8%	3.4%	11.8%	8.5%	5.9%	6.0%	0.9%

嫌な気持ちになるようなことを言ったりしたりしたことが「ある」と回答した児童生徒の割合は、約10%前後であり、中学校ではどの学年も10%を下回っている。

具体的な行為としては、どの学年も「冷やかす からかい 悪口等」が最も多く、次に「仲間外れ 無視」となっている。

(7) 次のようなことをしている人を見たり聞いたりしたことがありますか。(複数回答可)



嫌な気持ちになるようなことをしている人を見たり聞いたりしたことが「ある」と回答した割合は、全学年を通して20%~30%程度である。「手紙 PC スマホ」の割合が高いのは中1、中3となっている。

新型コロナウイルス感染症のことについての冷やかし等は、小1、小2、小4に高い割合がみられる。その行為では、どの学年も「冷やかし からかい 悪口等」が最も多く、次に「仲間外れ 無視」となっている。小2、小3では「殴られる 蹴られる」が一定数みられる。

(8) 新型コロナウイルス感染症に関連したことで、心配や不安、困っていることがある人は書いてください。(自由記述)※一部抜粋

小学校	中学校
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が感染することが心配。 ・友だちが咳をしていると心配になる。 ・看護師の母が感染しないか心配。 ・勉強が遅れていて心配。 ・休校中、宿題が多くて嫌だった。 ・もっとゆっくり授業をしてほしい。 ・宿題を減らしてほしい。 ・また緊急事態宣言が出るのが心配。 ・たまったストレスをどうにかしたい。 ・「コロナになっているんじゃないの」とみんなに言われるのはいやだ。 ・「近寄らないで」と差別的なことを言われたらどうしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染者が増えていること。 ・自分が持っていて友達、先生、家族などにうつしてしまわないか。 ・丁寧に消毒されたかどうか。自分や家族が感染するか。 ・感染したらどうなるのか、休校、中傷されないか。 ・授業の進みが早くて、心配。 ・授業の遅れが受験にひびかないか心配。 ・入試の範囲が授業で終わるのかと自分の勉強が間に合うか不安。 ・部活の引退がいつなのか知りたい。

小学校、中学校ともに、新型コロナウイルスに感染するのではないかという不安や心配を抱えている児童生徒が多くみられる。また、学習の進捗について、心配する発言もみられた。中学校では特に受験や部活について見通せない今後のことについて心配する声もあった。また、小学校では、感染についてのからかい等、差別的な発言を受けることが心配という記述がみられる。

(9) 学校以外のことでも、困っていることなど、先生に伝えたいことがあれば自由に書いてください。(自由記述)※一部抜粋

小学校	中学校
<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報公開しようとする人がいる。 ・友だちに自分のスマホからアプリにツイートされそうになった。 ・ゲームで知らない人が、パーティーに入ってきて嫌なことを言われた。「死ね、消えろ、人間のくず」と言われた。 ・ネットの友だちから離れたくても離れられない。 ・母から死ねと言われる。 ・自分の性別が分からなくなる時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラインで悪口を言われる。 ・LINEでの悪口、無視、退会など。 ・ネットの書き込み。 ・日本語があまりしゃべれないから友だちがいなくて。思っていることをうまく言えないです。 ・個人差の差別、性同一性障害などの差別。 ・親に攻撃をされたり、ちょっとしたことでも怒られたりする。

小学校、中学校ともに、スマホやゲーム、SNSによる様々な悩みやストレスを抱えていることが多くみられる。

また、家族から過度の叱責を受けているケースやその他少数だが虐待の発見につながるケースが確認できた。

小学校高学年や中学生に性別についての悩みを記載するものがみられる。

4 調査結果の考察

- (1) 「嫌な気持ちになったことがありますか」「人が嫌な気持ちになることを言ったりしたりしましたか」「嫌な気持ちになるようなことをしている人を見たり聞いたりしたことがありますか」という設問において「ある」と回答した児童生徒の割合は、小学校では概ね学年が上がるにつれて減る傾向にあります。小学校は、中学校より「ある」と答えた割合が高く、特に割合が高いのは、小学校の1、2年生となっています。
- (2) 「嫌な気持ちになった」という内容については、小学校6年生から中学校3年生において「パソコンやスマートフォンで嫌なことをされた」という割合が高くなっています。
また、自由記述の設問「学校以外のことで困っていることなど、先生に伝えたいこと」において、LINE やオンラインのゲーム等で「嫌な気持ちになっている」というものが複数ありました。しかしながら「パソコンやスマートフォンで嫌なことを」「された」割合に比べ「した」割合は低く、自分はしているつもりがなくても、相手にとっては嫌だと感じる場合があり、感じ方がそれぞれ違うことを認識させるため情報モラル教育や心の教育の一層の充実の必要があります。
- (3) 「嫌なことをされた」対象は、小学校では「クラスの人」という割合が半数を占めています。今後、学級における人間関係づくりやいじめを許さない環境づくりに努める必要があります。また、中学校2、3年生は「他のクラスの同級生」の割合が高くなり「同じ部活の人」の割合も一定数みられます。これは学校内において活動範囲が広がるため、学級、学年、学校において組織的に未然防止を行っていく必要があります。
- (4) 「嫌な気持ちにされる行為」が今も「続いている」と答えたものは小学校4、5年生に多く、約半数みられました。学校では、把握した結果を受け、解消に向けて早急に対応しています。
各学校では、学校いじめ防止基本方針に則り取り組んでいますが、今後も学校生活アンケートにより把握した実態を指導に生かした対応が求められます。
- (5) 今回の新たな設問とした、自由記述の「新型コロナウイルス感染症に関連したことでの心配や不安、困っていること」については、小学校、中学校ともに感染についてのからかい等、「差別的な発言を受ける可能性があって心配」という記述がみられました。なかでも小学校1年生から4年生は、新型コロナウイルス感染症に関連する「噂、疑い、冷やかし」を受けたという割合も高いことから、差別や偏見についての理解や認識を深めるための実践を行う必要があります。また、中学校では、学習の進捗についての不安もあることから、今後の学習計画等について明確に示していく必要があります。
- (6) 「学校以外のことで困っていること、先生に伝えたいこと」については、虐待、SNSによる悩み、性別についての悩みなど、早急に対応すべき事案もみられたことから、調査後に対応の詳細について該当校に確認しました。虐待については関係機関と連携して即時に対応しており、また、性別についての悩みは、継続的な指導を行っています。
オンラインのゲームにおいて、人とつながってトラブルになっている事案については、今回報告が複数あり、今後、注視する必要があります。

5 今後の取組

いじめの問題については、「藤沢市いじめ防止対策基本方針」及び全市立小中学校で策定した「学校いじめ防止基本方針」に基づき、学校と教育委員会、関係機関が連携し、更なるいじめの未然防止や早期発見・早期対応を推進していきます。

また、コロナ禍の不安や心配、学校以外の困りごとについて、児童生徒の安全安心につながるような取組の充実に努めていきます。

- (1) 児童支援担当教諭、生徒指導担当を中心に、学校内において情報を共有し、チームで支援指導していくことが重要になるため、スクールカウンセラーや関係諸機関を活用し専門的な助言を受けながら、さまざまな課題を抱える子どもたち一人ひとりのニーズに応じた対応を行っていきます。
- (2) 「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の充実に図り、いじめに関する問題を児童生徒が自分自身のこととして考えることができるよう計画的・発展的に取り組んでいきます。
- (3) 嫌な気持ちにさせられた対象が「クラスの人」が多かったことを踏まえ、学級がどの児童生徒にとっても安心できる自己存在感や充実感を感じられる居場所となる環境づくりを進めながら、児童生徒が主体的に取り組む協働的な活動を通して互いを認め合える場所となるよう努めていきます。
- (4) 児童生徒のネットトラブルが増加していることを踏まえ、児童生徒・保護者に対する情報モラル教育の一層の推進を図るとともに、最新の対処法などについて研修等を行います。
- (5) 新型コロナウイルス感染症に関連する差別や偏見、不安や心配等については、効果的な教材等を活用し、児童生徒が互いを励まし・支え合える関係を構築できるよう努めます。
- (6) スクールロイヤール制度を活用し、問題の未然防止、早期発見・早期対応を図ります。
- (7) いじめ防止対策担当スクールカウンセラーによる研修会を充実させ、教職員のいじめに対する意識や対応力を高めます。